

# 思いを伝えられる力を

今号の表紙 福岡県 飯塚市立片島小学校

漢字や英語のクイズを出したり歌を歌ったりと、多様なプログラムを内蔵するロボット「ペッパー」は、子どもたちに大人気。プログラミング学習を行うのは4～6年生だが、ICTを身近に感じられるよう、低学年の子どもにも定期的に「ペッパー」と触れ合う機会を設けている。

知識構成型ジグソー法を取り入れた授業は、全学年で行っている。国語と算数から研究を始め、今では全教科で実践している。自分の考えを伝える経験を重ねることで、どの学力層の子どもも自信を持って発表できるようになっていく。

10年以上前から国際交流や英語教育を推進。毎日英語に触れられるよう、朝のチャットや英語の掲示物などに工夫を凝らす。毎年行われる近隣校の高校生による英語の授業を、子どもたちは楽しみにしている。

「いきいきサロン」は月1回、地域の高齢者と交流を深める場だ。子どもたちが準備したカルタやけん玉などで一緒に遊ぶ中で、高齢者にも笑顔があふれる。

目指す子ども像に「笑顔いっぱい、あいさついっぱい、歌声いっぱい」の3つのいっばいを掲げる、福岡県飯塚市立片島小学校。立山俊治校長は、「自分の思いをしっかりと表現し、相手のどんな思いも受け入れられる、やさしく、たくましい人に育ってほしいと願っています。笑顔とあいさつ、歌は、その第一歩になると考え、大切にしています」と語る。

同校が長年力を入れているのが、知識構成型ジグソー法\*を取り入れた授業づくりだ。課題について自分の考えを説明し、相手の考えを聞き、比較・検討・分析する過程を通じて、学習の質を高めるとともに、心を育むというねらいもある。

「発言の場があることで、発表が苦手でも一生懸命考えを伝えようとしています。仲間もそれをしっかり聞いて、1年生でもみんなが納得できるよう話し合っていく姿が見られます」と、立山校長は胸を張る。

2017年度には、Pepper社会貢献プログラムにて無償で貸与されたロボット「ペッパー」を活用したプログラミング学習を始めた。「ペッパー」におしゃべりをさせたり、手の動作をさせたりするプログラミングを通して、論理的に考えて行動する力を身につけていく。「地域の紹介をしたり、病気の予防法を学ぶクイズを出したりと、『ペッパー』をどう活用すればみんなの役に立つのかを考えるという、子どもの豊かな発想に驚かされています」と、立山校長はほほえむ。

ほかにも、近隣の高校と連携して高校生を招いて行う英語学習や、地域の高齢者に歌を披露したり一緒に遊んだりする「いきいきサロン」など、様々な人との交流の機会を設けている。そうした数々の経験は、英語スピーチコンテストで発表をしたり、小学生討論会に出場したりと、思いを伝える場を自ら広げることにつながっていく。

飯塚市立  
片島小学校

◎ 1874年開校。学校教育目標は「心身ともに健康で、自主・自律の精神に富み、勤労と責任を重んじ、豊かな国際感覚をもった児童の育成」。飯塚市教育委員会の施策を受け、協調学習を取り入れた授業づくり、外国語教育、プログラミング学習などを推進。

校長 立山俊治先生

児童数 428人

学級数 16学級（うち特別支援学級3）

URL <http://www.city-iizuka.ed.jp/katashima/>

\*ジグソーパズルを解くように、協力して全体像を浮かび上がらせる協調学習法の1つ。ある課題について、複数の視点で書かれた資料を読む「エキスパート活動」、そこで得た知識を交換し、考えを深めていく「ジグソー活動」、全体でグループの意見を交換する「クロストーク活動」の3つの活動から成る。